

上杉文華館 目録  
2022年11月25日（金）～12月25日（日）  
関東管領上杉氏⑨～武蔵守護

資料名	員数	法量 (cm)	時代	作者	所蔵
複製 上杉本 <small>うえすぎほん らくちゅうらくがいずびょうぶ 上杉本 洛中洛外図屏風</small>	六曲一双	各160.4×365.2	原本 永禄8年（1565）	狩野永徳	上杉博物館
国宝 上杉家文書 <small>あしかがもちりょうしよしよしんじょう 足利持氏料所所進状</small>	一通	35.5×55.5	応永31年（1424）6月17日		上杉博物館 文709
国宝 上杉家文書 <small>うえすぎのりざねほうしよ 上杉憲実奉書</small>	一通	35.5×56.4	応永31年（1424）6月17日		上杉博物館 文629
国宝 上杉家文書 <small>うえすぎのりざねほうしよ 上杉憲実奉書</small>	一通	35.5×56.8	応永31年（1424）7月5日		上杉博物館 文630
国宝 上杉家文書 <small>あしかがよしもちごはんのみぎょうよ 足利義持御判御教書</small>	一通	34.2×54.8	応永26年（1419）8月28日		上杉博物館 文701

2022年度の上杉文華館は「関東管領上杉氏」をテーマに、国宝「上杉家文書」などを展示します。

長尾景虎（上杉謙信）は、永禄4年（1561）閏3月、上杉憲政から山内上杉氏の名跡と関東管領職を譲り受けました。ここに、後に米沢藩主となる上杉氏が成立しました。この関東管領の地位を名分として、謙信は関東に出兵し、同じく関東管領を称した北条氏と抗争を繰り広げました。また、江戸時代には関東管領に上杉家の歴史的アイデンティティを見出していました。この謙信が継いだ上杉氏の歴史を国宝「上杉家文書」からみていきます。

室町幕府は、東国支配のために鎌倉府という地方機関を設置しました。これは、足利尊氏の息子義詮・基氏、そして基氏の子孫に継承された鎌倉公方をトップとして、幕府とほぼ同様の組織を編成し、管下の武士に対して強力な支配を行っていました。その鎌倉府のナンバー2の地位にあって、鎌倉公方を補佐し、政務を統轄する立場にあったのが関東管領でした。初期は上杉氏以外の諸氏も含めた人事がなされましたが、最終的に山内上杉氏が継承、家職と位置付けられていきました。15世紀半ばに鎌倉公方と関東管領の対立によって鎌倉府が崩壊した後も、関東支配の重要な地位にあり続けました。

第9回目は、「武蔵守護」をテーマとして関連文書を紹介します。武蔵国（埼玉県・東京都・神奈川県）は武家政権にとって重要な国で、室町時代には鎌倉公方の直轄地とされました。応安年間（1368～75）には関東管領が守護を務め、至徳年間（1384～87）ごろに守護機構を中心とした支配体制が確立したとされます。応永24年（1417）の上杉禅秀の乱平定後、関東管領職を独占した山内上杉氏は武蔵支配を強化し、15世紀半ばに始まる東国の戦国時代における上野（群馬県）から武蔵、相模（神奈川県）、伊豆（静岡県）にわたる上杉氏の勢力圏の構築へとつながっていきました。

「国宝上杉本洛中洛外図屏風」は、原本の完成時を想定した1995年制作の複製Aを展示します。